



山陰ライブ紀行 / 鳥取へ行くぞ！ 編

1999年9月4日掲載

あるアーティストのライブのチケットが入手できた。しかも、場所は鳥取。東京の人間が、鳥取までライブを見に行ってしまうというのだ。まるで「追っかけ」のような行動力。

「なぜ鳥取？」という疑問がわくだろう。実は、ただのコネ。でも、このコネなくしてはライブにも、あるいは山陰にも足を踏み入れることはなかったかも知れない。

鳥取ライブの開場は17:30。逆算すると、東京を9:52に出発する「のぞみ9号」でないと間に合わない。今年1月に行った「麺類紀行」と同じく、500系のぞみに乗る。

ただし、乗るのは途中の京都まで。ここから、気動車の特急「スーパーはくと5号」に乗って鳥取に向かう。乗り換えの際、駅弁を購入して昼食にしたのはいうまでもない。

この「スーパーはくと」、気動車（ディーゼルカー）と侮ってはいけない。最高130km/hも出すのだ。



これが「スーパーはくと」。意外にスピードを出してくれる。鳥取駅にて撮影。

ところで、「スーパーはくと」は神戸市内を通る。トルコでの大地震もあって、神戸市内の復興した町並みを見て、無意識に感慨にふけてしまった。

比較的新しい建物が並んでいる間に、未だに更地のところもある。更地を見る限り、震災から4年半がたった神戸の街も、まだ完全な「復興」はしていないと思ってしまう。

そうこうしているうちに、列車は川やトンネルを抜け、目的地鳥取に到着。ライブのチケットを確保してくれた現地ナビと合流した。実は、現地ナビの人も、ライブを行うアーティストのファンなのだ。合流直後、荷物をホテルにおき、ライブ会場に向かう。

本当は鳥取砂丘を見たかったのだが、時間の都合でNG。翌朝も、松江への移動が控えていたので、結局は見れずじまい。まあ、次回まで取っておきますか。

開場と同時にグッズを購入。バスタオルと、おみやげ用のシールを買い込む。

席に向かう。何と、席はミキサー卓の4列ほど前のほぼ中央だった。

ミキサー卓は、会場で一番いい音で聞こえる場所にあるため、音的には問題なし。また、前から13列目なので、アーティストの表情もステージ全体もよく見える位置だ。

いよいよライブがスタート！ この続きは[こちら](#)からどうぞ。

[\[トップページ\]](#)



山陰ライブ紀行 / ライブを見るぞ！編

1999年9月11日掲載

あるアーティストの鳥取ライブ&山陰観光旅行の2回目。1回目は[こちら](#)を見てね。

18:05、期待と緊張の中、ライブがスタート！2人組の女性デュオがステージに登場した。1人は今年ボーカリストと結婚し、1人はビジュアル系バンドのメンバーとの略奪愛進行中。

さて、注目の1曲目は、最新アルバムの1曲目だ。今回のライブは、このアルバムの発売を記念して行われているツアーの一環。だから、ライブの1曲目はアルバムの1曲目になる。

ノリのいい曲なので、初っぱなから場内は大盛り上がり。ちなみにこの曲、クレジット会社のCMソングとして使われた。

曲が進むうち、2人のMCが始まる。実は彼女たち、鳥取ライブは2回目となるのだ?!

1回目は、ある番組での企画。鳥取県でのCDセールスが悪いというので、鳥取市内でティッシュを配ったりした。そして、鳥取市から南へ10kmほどにある郡家（こおげ）町の畑で、ビールケースをステージにて携帯用カラオケで歌ったのだ。なので、ホールライブは「初めて」ということになる、一応。

さらに曲が進み、再びMC。このMCの最中に、オフィシャルHPの掲示板に書き込んで写真までUPしようという企画があるのだ。

そこに登場したのは、CCD内蔵のノートPC。メーカーは、当然彼女たちが所属するレコード会社の親会社であることはいうまでもない。

ステージ上から会場内を撮影するが、私はアーティストの陰になってしまった。でも、家に帰ってHPを見てみると、前から5列目以降の客は顔の識別なんて不可能。画像が小さいので、致し方ない。

でも、今回はラッキーなことが！「戦利品」をゲットできたのだ。

ライブの演出で、もはや欠かせなくなった銀リボンの発射。これは圧縮空気ですりばたを飛ばす構造になっており、業界では「銀打ち」と呼ばれている。何と、この「銀打ち」の銀リボンを得ることができた。

発射されたリボンは、長さ約4m。リボンが下に降りてくるタイミングに合わせて、観客同士が奪い合う。

私もリボンをつかんだ。それを回収しようと、リボンを丸めにかかる。すると、前の席の観客が持っていたリボンと同じものであることが判明した。

この事実を知った彼は、すかさずリボンを半分にしぎる。「なんていい人だー！」と心の中で絶叫。「彼女たちのファンに悪い人はいない」と確信した瞬間であった。



「戦利品」の銀リボン。よく見ると、アーティストやツアーの名前が書かれている。いい記念だ！

次のMCでは、ステージ上の彼女たちはこんなことを言っていた。

「ねえ、何でビジュアル系のライブのお客さんって、みんなで捧げてるのかなあ？」

「何を捧げてるんだろう？」

“捧げる”とは、両手を肩から正面に送り出すような仕草。ちょうど、バスガイドが「バック、オーライ！」と逆の流れで手を動かして

いる状態だ。

ビジュアル系ライブの観客が、どういうわけか“捧げる”系の動作をみんなでしているのが疑問になっただけらしい。そのMCの直後、次の曲ではさっそくこのライブの観客も“捧げる”系の動作をしていた。私も、その1人。

15曲以上を熱唱し、ついにアンコール。衣装を着替えた彼女たちは、再び熱唱した。

最後、ステージ上にあった予備のピックを観客席に投げる。しかし、私のところには届かない。まあ、別の「戦利品」があるからいいか。

そして、最後のお辞儀をした直後、ちょっとしたハプニングが！ 独身の方が、頭を上げたから歯をマイクに思いっきりぶつけてしまったのだ。

場内に「ゴンッ」という音が響き渡り、彼女は痛そう。その模様は、公式HPにもしっかりかかれていた。

ライブ終了後、ディナーを食べホテルに戻る。その後、爆睡。

翌朝、起きてからの続きは[こちら](#)をご覧ください。

[\[トップページ\]](#)



山陰ライブ紀行 / 出雲路観光だ！編

1999年9月18日掲載

東京の人間が、わざわざ鳥取で行われるライブを見に行った+ついでに山陰観光旅行の3回目。[1回目](#)と[2回目](#)は、それぞれを見てもらおう。

ライブの翌朝、8時に起床。鳥取9:47発の快速「とっとりライナー」で、松江に向かう。

今回の旅行で感じたのは、鳥取と松江の距離。実は、120kmもあったのだ。東京の人間からすれば、山陰だからすぐ近くだろうと思いがち。でも、案外離れている。

ところで、鳥取と松江をダイレクトに結ぶ交通機関が少ないのだ。高速道路もなく、あるのはJR山陰本線だけ。

JRも特急があるにはあるが、途中までだったり、本数が少なかったりでいまいち使えない。だから、快速に乗ることになった。

約2時間で松江に到着。到着後、現地ナビの



車に乗り換え、昼食を取る。その後、松江市街にある銀行本店の展望ロビーに向かう。何でも、松江市街には条例で建物の高さ規制があるらしく、こ

の銀行は松江市街で随一の高さとか。

で、展望ロビーは14階。市街の眺めも最高だが、眼下を見下ろす宍道湖も最高だ。もちろん、デジカメでしっかり撮影した。

松江市をあとに、出雲大社へ。途中宍道湖沿いを走り、その眺めはなかなかのものだ。

対岸には、強力なフラッシュが。出雲空港の誘導灯だった。

また、途中になにやら白いドームを発見。出雲ドームだ。車で走っているのに、わざわざデジカメで撮ってしまった。



田んぼの真ん中に突如現れた、白垂のドーム。これが出雲ドームなのだ。車の走行中に撮影した割には、しっかり映っている。

は、二礼二拍手一礼。でも、出雲大社の参拝方法に従った。

ところで、ここは縁結びの神様。お願い事は当然。

参拝を終え、近くの日御碕（ひのみさき）に向かう。この続きは、[次回](#)までのお楽しみ！

[\[トップページ\]](#)



山陰ライブ紀行 / いよいよ帰郷！編

1999年9月25日掲載

鳥取ライブを見に行こう & 山陰観光旅行をしよう！の4回目で最終回。[1回目](#)、[2回目](#)、[3回目](#)はそれぞれを見てほしい。

出雲大社から、近くの日御碕（ひのみさき）に行く。ここは島根半島の最西端で、そのまま西に進むと朝鮮半島。久々に見る日本海だ。

余談だが、日本には「ひのみさき」が2つある。1つは島根県、もう1つは和歌山県にある。字は、和歌山のは「日ノ御碕」と書く。ちょっと違う。

日御碕には灯台があり、岩場で荒々しい海岸線。個人的には、こんな場所は好きだ。ただ、天気と帰りの飛行機の都合で、早々に退散。



日御碕に立つ灯台。夕方4時まで中を見学できるらしいが、着いたころには間に合わなかった。

出雲市内で早めの夕食。そして、いよいよ出雲空港に向かう。この旅もいよいよ終盤を迎えた。

乗る飛行機は出雲19:35発のJAS278便で、羽田への最終便。鳥取のホテルで香港の墜落事故を耳にしてしまったため、一抹の不安におそわれる。

でも、「都合のいい楽道家」のふくちゃんはそれでも飛行機に乗る。乗らないと帰れないからねえ。

現地ナビの人とは空港でお別れ。そして、飛行機に乗り込んで離陸となる。

私は、離陸の瞬間に味わえるG（重力）がたまに好き。これが苦手という人もいるが、7か月ぶりにこの感覚を楽しめるのだ。ワクワク！

窓の外には、遥か彼方に稲光が見える。ここでおもしろいのが、光の色。

地上で見る稲光は、青白い色をしている。しかし、上空、しかも数百kmも離れたところから見る稲光は、電球のようなオレンジ色をしていた。

何となく、地球創世記のCGを見ているような感覚。また、自然の不思議さを味わった瞬間でもあった。

羽田に無事到着し、迎えに来た親の車で帰宅。これで、1泊2日にわたったライブ紀行が完結した。

[\[トップページ\]](#)